



川中だより

令和7年2月28日（金）発行

新発田市立川東中学校

学校だより 第11号

TEL (25)2011 FAX (25)2022

<https://kawahigashi-j.shibata.ed.jp/>

卒業する3年生に贈る言葉 「親友ではなく、真友とは？」

校長 清水 謙一

私は小学生のころから剣道をやっていたため、昔からお侍さんに関わる本や漫画を読むのが好きでした。その中で隆慶一郎 作「一夢庵風流記」を原作とした原哲夫著「花の慶次」という漫画が好きでした。原哲夫さんは「北斗の拳」の作者としても有名な日本を代表する漫画家の一人です。

その物語の中に「真の友とは」ということを扱った場面があります。

主人公の「前田慶次」が無実の罪をきせられ、京都所司代に攻撃を受けた際、幼少からの親友で前田家の家老「奥村助衛門」が助けに来ました。助衛門は大家の幹部であり、立場があるため、慶次を助ければ助衛門自身の立場が危うくなるにもかかわらず助けたのです。それを見ていた徳川家康が言いました。

「運が登れば、人は友達づらして寄ってくる。されど、本当の友とは、日頃疎遠でも難儀の時にこそひょっこり現れて救いの手を差し伸べるものよ」

このセリフの意味は「有名になったり、お金持ちになったり、権力を握ったりすると、その人と付き合うことで『得する』と思った途端に、人は友達のふりをして近づいてくるが、本当の友とは、苦しい、つらい、困っている時にこそ、さりげなく現れて、助けてくれる、励ましてくれる、支えてくれる…のが真友である。」ということです。

さて、みなさんにとって中学校生活はどうだったでしょうか？

学習、部活動、生徒会活動、その他さまざまな学校生活がありました。入学当初描いていた理想の中学校生活は送ることはできたでしょうか。

私から見た三年生という集団は「笑顔が多く、男女分け隔てなく仲が良い、そしてその関係性からアイデアを出し合ったり、話し合ったりすることがよくできる」でした。これは、人間関係の良い集団にしかできないことです。

21人という少ない人数で保育園、小学校、中学校と長い時間一緒にいたのですが、長い時間一緒にいたら全ての集団がこのような関係性がつくれるかということではありません。一人一人が互いを認め合い、支え合い、思いやってきたからこそ、長い時間をかけてそのような関係性ができてきたのだと思います。

3月4日の卒業式を機に、今までずっと一緒に過ごしてきた仲間とは、それぞれの道に分かれて行きます。しかし、中学校で一緒に多くのことを過ごしてきた仲間と、一生離れ離れになるわけではありませんし、新しい新天地で新たな出会いがあるかもしれません。

この川東中学校で経験してきたことを胸に、「新たな挑戦」をスタートしてください。そして、これからも真友を大切にしてください。また、真友がこれから見つかる人もいません。真友という存在は、自分自身の人生を豊かにしてくれます。

みなさんの人生が幸多いことを心から祈っています。

卒業おめでとう！！